

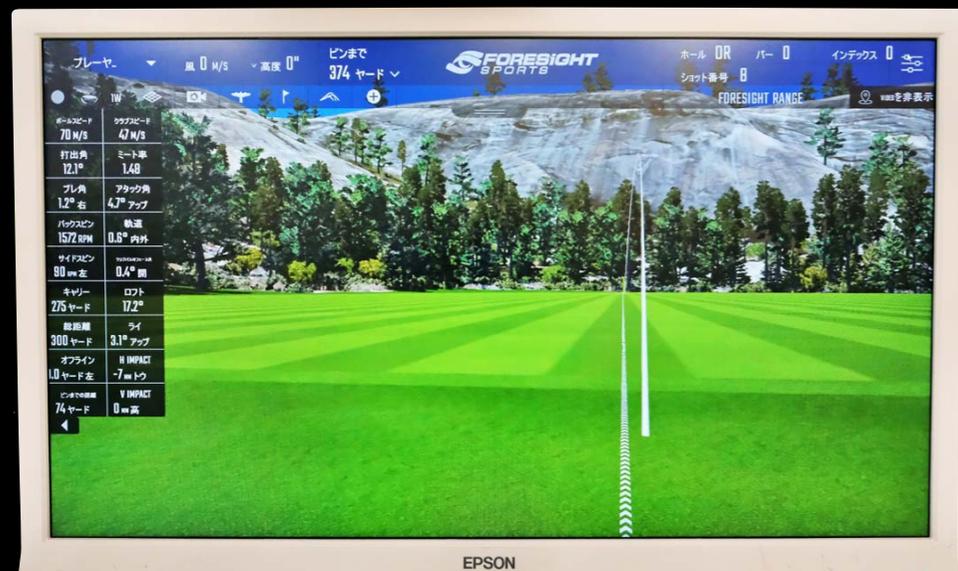
USTマミヤ
The ATTAS V2

シャフトが余計な動きをしない
「V2」は飛んで
曲がらない!

「The ATTAS」の後継モデル、「The ATTAS V2」を、
ギアに精通するゴルフデータアナリストの小島プロが、
試打データとインプレッションで評価した。

PHOTO/Akira Kato

「中調子ですが、手元にしなり感も感じる
のでタイミングが取りやすく振りやすい。
『The ATTAS』よりもトルクが締まっている
が、イヤな硬さではありません。進化した最新
ヘッドとマッチするようにアップデートされ
た最新シャフトです」(小島プロ)



クラブパス

1球目	0.5度	イン・アウト
2球目	0.3度	イン・アウト
3球目	0.4度	アウト・イン
4球目	0.1度	アウト・イン
5球目	0.6度	イン・アウト
平均	0.2度	イン・アウト

弾道計測器「GCクワッド」で計測すると、
ほぼ曲がりのない真っすぐなストレートボ
ールを連発。試打データを見ると「クラブ
パス」が揃っていて、スウィング軌道が安
定していることがわかる。飛距離も300ヤ
ードに達し、「The ATTAS V2」は「飛んで
曲がらない」シャフトだった

試打・解説

小島慶太プロ

日本初トラックマンマスタ
ーやTPIレベル3などの資
格を持つツアープロでゴル
フデータアナリストの第一
人者。パーソナルコーチン
グも展開。千葉・稲毛海岸
のイオンマリニピア専門館
にスタジオ「ゴルフアップ」
をプロデュース



ビククリするほど
スウィング軌道が安定する

「『The ATTAS』は使って
いたことがあるのですが、と
にかく振りやすかった。それに比
べると『The ATTAS V2』
は締まった感じが、後継モ
デルといえども、フィーリング
は異なります。ただし、ピンピ
ンするようなイヤな硬さではな
く、グリップの先にしなる感じ
があり、タイミングが取りやす
い。『The ATTAS』に通じ
る振りやすさがあり、クセのな
いニュートラルな中調子です。

ボールの打ち出し方向と曲が
り幅には「クラブパス」が大き
く影響してきます。「クラブパ
ス」とは、インパクト直前から
インパクトを通過した時のクラ
ブの左右の軌道のことで、イン
サイドからアウトに振り抜くと
ドロー系、アウトサイドからイ
ンに振り抜くとフェード系の球
になります。数値はその人のス
ウィングによって異なります
が、クラブパスが揃っていれば
スウィング軌道が一定で、安定
した球が打てると言えます
。『The ATTAS V2』
は、何度打ってもクラブパスが

ほとんど同じ。自分で打ってお
きなびくクリするくらいで
すが、これはシャフトの力が大
きい。フェースアングルもほと
んど変わっていないので、向き
と方向が揃いやすい、つまり曲
がりにくいんです。シャフトが
スウィング軌道を安定させてく
れます。

最近の大慣性モーメントの大
型ヘッドではフェースが開いた
ら戻ってこないこともあります
が、このシャフトはトルクが締
まっているためフェースが開き
にくく、開いても返って来ます。
プロでも緊張すると力みが入り
コントロールできなくなるこ
とがありますが、このシャフトな
ら余計な動きをしないので、力
みやすい人でも安定して飛距離
に還元してくれる。「The A
TTAS V2」は、飛んで曲が
らないシャフトで、女子プロが
使う理由がよくわかりました。
以前、「The ATTAS」を使
っていたが、ヘッドを新しくし
たら合わなくなったという人
や、振りやすいシャフトを探し
ている人は、一度試してみると
いいでしょう」